

# 地域づくりネットワーク会議 ニュース

## ～ 第24号 ～

### 『(仮称)大江緑道 地域ネットワーク会議』を開催しました！

地域の人々に親しまれ、さまざまな人々に有効活用される「(仮称)大江緑道」の魅力づくりの方策を検討していくため、地域づくりネットワーク会議を実施しています。

平成26年2月26日(水)、滋賀県立大学客員准教授の森川稔先生の司会・進行により、地域ネットワーク会議(代表者会議)を開催しました。平成25年度の活動内容について総括を行い、森川先生と大阪府立大学大学院教授の藤原宣夫先生にご講評を頂くとともに、関係者間で意見交換を行い、今後の活動の展望を議論しましたので、その内容をお知らせします。

#### ■ 『(仮称)大江緑道 地域ネットワーク会議』の概要

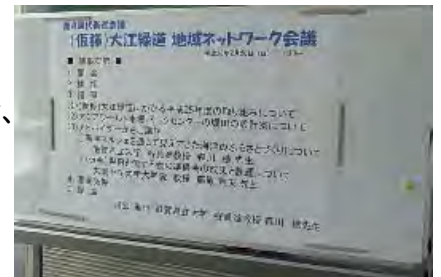
日 時：平成26年2月26日(水) 13:30～15:30

会 場：アクアワールド水郷パークセンター内 パークセンターホール

参加者：大江地区連合自治会、海津市漁業協同組合、海津市観光協会、  
海津市歴史民俗資料館、パークパートナー、  
木曾三川公園センター、海津市、岐阜県等行政関係者等、  
計24名

主 催：国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所

共 催：海津市



#### ■ 当日のプログラム内容

○(仮称)大江緑道に係るこれまでの取り組みについて

(国土交通省 木曾川下流河川事務所)

○アクアワールド水郷パークセンターの堀田の設計案について

○アドバイザーからのご講評

(1)「海津マルシェを通じて見えてきた海津の  
ふるさとづくりについて」

滋賀県立大学 客員准教授 森川 稔 先生

(2)「(仮称)堀田を愛する会の成果と課題について」

大阪府立大学大学院 教授 藤原宣夫 先生

○意見交換



#### ■(仮称)大江緑道にかかる平成25年度の取り組みについて

平成25年度の活動について、事務局から以下のような報告を行いました。

- ・ワーキング会議で、堀田の再生、活用のための組織づくりを話し合い、「(仮称)堀田を愛する会の準備会」を設立した。また、その中で堀田の設計、維持管理活動について議論を重ねた。
- ・社会実験、「海津マルシェ～ふるさと特産市～」、「輪中のお宝探検隊2013」を行った。海津マルシェは、参加者で4回の会議を重ね、地元と連携し、広報を注力した結果、昨年を大きく上回るにぎわいが得られた。



## ■アクアワールド水郷パークセンターの堀田の設計案について

事務局から、アクアワールド水郷パークセンターにおける再生堀田などの設計案について、以下の様な説明を行いました。

- 堀田の給水は井戸を予定し、堀上田の上面に水を貯めるための小さな土手を設けて効率的に水を利用する。
- 堀上田の水面下の部分は、容易に崩れないように補強する。
- 「どべ上げ」、「面出し」などの昔ながらの堀田営農を体験できる場と、機械化を前提としたエリアで構成する。
- 堀田に隣接してバーベキューなどができる広場を設ける。
- 大江緑道は義呂池西側を通過して南側へ抜けるルートとなる。



## ■アドバイザーからのご講評

アドバイザーの先生方より、平成 25 年度の活動の総括として、ご講評を頂きました。

### ■海津マルシェを通じて見えてきた

海津のふるさとづくりについて（森川 稔先生）

- 海津マルシェは周囲と共に成長し、「海津地域の活性化」という大きな目的を見据えられるようになってきた。
- 「海津という地域を活かす」、「人が繋がる」、「みんなが楽しむ」、「成長する」、この 4 点を大事にして欲しい。
- 今後は、広報の充実、海津マルシェの開催回数を増やす、運営主体の確立が重要だ。ぜひ継続して行ってほしい。



### ■（仮称）堀田を愛する会の準備会の成果と課題について（藤原宣夫先生）

- 今年の最大の成果は、本格的な組織の前身にあたる準備会を立ち上げたことだ。コアメンバーが集まり、参加者が固定化されてきた。準備会では熱心に議論が交わされてきた。
- 今後の課題としては、事務局機能など行政との活動分担、堀田ができるまでの活動内容の検討が挙げられる。堀田だけでなく、大江地域の景観をどう創っていくかも考えるべきだ。
- 活動を続けるためには、「楽しさ」が必要不可欠だ。実験堀田に期待したい。

## ■意見交換

大江緑道の今年の取り組みと今後の展開について、次のようなご意見を頂きました。

- 堀田の景観は素晴らしいが、それだけでは人は集まらない。地域が連携して活動することが大事だ。
- マルシェには、桑名など離れたところからも人が来てくれた。やはり広報の力は大きい。「食」もアピールになる。
- 堀田で使われていた農具を展示できるようにして欲しい。子どもたちには、農業体験と同時に見学してもらえば良い。
- 海津の先人達の努力、特産品を含めた地域の良さなど、根本を忘れず、みんなで楽しんで盛り上げていきたい。まちづくりには「よそもの」「わかもの」「ばかもの」が必要だ。多様な層の人の輪を広げていきたい。

